

医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No. 5

血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血による死亡

血管内治療時の大腿動脈穿刺に伴う後腹膜出血により死亡した事例が7例報告されています。なお、対象事例の概要は、院内調査報告書をもとに専門分析部会が整理し、作成しています。

対象事例の概要	
事例 1	<ul style="list-style-type: none"> 90歳代。内頸動脈狭窄症で頸動脈ステント留置術を施行。抗血栓薬を3剤服用中。 血管内治療時に大腿動脈を穿刺。治療後、止血デバイスおよび用手圧迫で止血。血圧が低下し、昇圧剤を投与。鎮静をかけたまま帰室。刺入部の腫脹、硬結なし。再度、血圧が低下し、昇圧剤を増量。ヘモグロビンが低下し、輸血を準備。帰室から約1時間半後、CTで大腿動脈穿刺部近傍に後腹膜血腫を確認した直後、心肺停止となり死亡。 解剖無、Ai無
事例 2	<ul style="list-style-type: none"> 70歳代。下肢閉塞性動脈硬化症（膝窩動脈以下閉塞）で経皮的血管形成術を施行。抗血栓薬を2剤服用中。 血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療後、止血デバイスで止血。帰室後、穿刺した側の腹痛あり。約1時間後、刺入部の出血、腫脹なし。約3時間後、便失禁、嘔気、嘔吐あり。その後、背部痛、顔面蒼白、頻脈あり。血圧が低下し、昇圧剤を投与したが、心停止。心拍再開後にCTで後腹膜血腫を確認し、帰室から約15時間後に死亡。 解剖有、Ai無
事例 3	<ul style="list-style-type: none"> 70歳代。下肢閉塞性動脈硬化症（総腸骨動脈閉塞）で経皮的血管形成術を施行。血小板減少性紫斑病、抗血栓薬を2剤服用中。 血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療後、用手圧迫で止血後、枕子固定し帰室。約2時間後、嘔気、頻脈あり。その後、心停止となり、経皮的人工心肺装置を装着。下肢造影検査で大腿動脈の穿刺部位から後腹膜腔内に出血を確認、ステントグラフトを挿入したが、播種性血管内症候群を認め、2日後に死亡。 解剖無、Ai有
事例 4	<ul style="list-style-type: none"> 80歳代。下肢閉塞性動脈硬化症（大腿膝窩動脈閉塞）で経皮的血管形成術を施行。抗血栓薬の服用なし。 血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療中、血圧が低下し、心拍40~50/分。治療後、止血デバイスおよび用手圧迫で止血し、帰室。約1時間後、刺入部の出血なし。約2時間後、心拍が低下。頸動脈触知が微弱なため昇圧剤を投与したが、帰室から約3時間後に死亡。 解剖有、Ai有（死亡後、後腹膜出血を確認）

【略語】 Ai：Autopsy imaging（死亡時画像診断）

対象事例の概要	
事例 5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 80歳代。内頸動脈狭窄症で頸動脈ステント留置術を施行。抗血栓薬を2剤服用中。 ・ 血管内治療時に大腿動脈を穿刺。治療後、止血デバイスおよび用手圧迫で止血中、下腹部痛あり。血圧が低下し、超音波検査で腹壁の周囲に血腫を確認。症状出現から約30分後、CTの待機中に心肺停止。心拍再開後、CTで後腹膜血腫を確認、ステントグラフトを挿入し止血。その後、腹部膨満感が増強。CTで腰動脈から出血があり、塞栓術を施行したが再出血をきたし、2日後に死亡。 ・ 解剖有、Ai無
事例 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 70歳代。未破裂脳底動脈瘤で脳動脈瘤コイル塞栓術を施行。抗血栓薬を3剤服用中。 ・ 血管内治療時に大腿動脈を穿刺。治療後、止血デバイスおよび弾性包帯で圧迫止血し帰室。約1時間後、排便後に胸痛あり、血圧が低下し、昇圧剤を投与。CT検査室へ移送中に呼吸停止となり気管挿管。帰室から3時間後、CTで後腹膜血腫を確認し搬送したが、その約1時間後に死亡。 ・ 解剖有、Ai有
事例 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 70歳代。狭心症で経皮的冠動脈形成術を施行。抗血栓薬を2剤服用中。 ・ 血管内治療時に大腿動脈を複数回穿刺。治療中、血圧が低下し、昇圧剤を投与。止血デバイスで止血後、嘔吐あり。帰室時、見当識障害あり。約1時間後、再度、血圧が低下し、頻脈、冷汗、嘔気あり。約2時間後、刺入部の出血、腫脹なし。約5時間後、冠動脈造影検査でステント血栓症は否定、大腿動脈を造影し、血管外漏出なし。大動脈内バルーンパンピング挿入したが、頻脈が続き、帰室から約16時間後に死亡。 ・ 解剖有（死亡後、後腹膜出血を確認）、Ai無

【略語】 Ai：Autopsy imaging（死亡時画像診断）